

様式 8

「川づくり団体」部門 新設かわづくり団体

## 河川基金助成事業

「利根川は地域をつなぐ」

助成番号：2022 - 6322 - 011

利根川の魅力を育む会  
代表者 石川 貴夫

2022 年度

# 1. 活動概要

## 1.1 運営団体概要

### 1.1.1 会の名称

利根川の魅力を育む会（会長 石川貴夫）

### 1.1.2 設立経緯

羽生市では、2007年より羽生市立村君小学校で河川学習が取り入れられて以降、13年間にわたってハクレンの飛ぶ利根川の川下りが実施されてきました。このような活動は、自然を尊重する精神や自然環境保全を学ぶことに加えて、世代を超えた地域交流の場や、自然体験観光の場としても、重要な役割を担った活動であると認識しています。しかし、こうした“利根川の魅力”を広めることができていません。そこで、“ふるさとの利根川”の魅力を羽生市のみなさんに広く認識してもらおうとともに、地域経済活性化や利根川及び羽生市の地域ビジョンの策定、キーパーソンとなる人づくりを目指し「利根川の魅力を育む会」を発足しました。

### 1.1.3 活動目的

当会は、次世代を担う子供たちに加えて当該地域を支える大人たちを対象として、関東地域を代表する『利根川』の地域固有の自然環境や、郷土の歴史・文化等の地域資源を活かした体験活動（自然観察会および利根川川下り）を通じて、自然環境保全の必要性理解を深めるとともに、地域の人々の利根川に対する想いや願いを共有し、大人も子供も「地域の一員」としての意識を持った地域に根差した人づくり・地域づくりを目指しています。

### 1.1.4 沿革

当会の沿革は表 1-1 に示すとおりです。

表 1-1 利根川の魅力を育む会の沿革（発足～2022 年 12 月まで）

年月	取組概要	備考
2018.4	利根川の魅力を育む会の発足	会員 2 名
2018.5	利根川の魅力を育むワークショップ開催 ○羽生市市民活動応援補助金への応募（受託）	会員 8 名
2018.6	利根川実践川遊び「水辺安全講座」開催 利根川実践川遊び「利根川川下り」開催	参加者：20 名 参加者：30 名
2018.7	○羽生市立村君小学校総合学習支援	
2018.11	利根川の魅力を育むワークショップ開催 ○河川基金（新設川づくり団体）への応募（受託）	参加者：7 名
2019.2	○平成 30 年度彩の国埼玉環境大賞受賞	羽生市立村君小学校総合学習
2019.5	羽生市村君地区あおぞら市場への参画	参加者：50 名
2019.6	利根川実践川遊び水辺安全講座・川下りイベント開催	参加者：16 名、参加者：24 名
2019.7	○羽生市立村君小学校総合学習支援	小学生：18 名
2019.8	小山市あゆまつりへの参画	来場者：200 名
2019.11	道の駅はにゅう祭り（地元イベントへの参画） 利根川ゴミ拾い※台風 19 号を受けて地元貢献活動へ変更 利根川の魅力を育むワークショップ開催	来場者：100 名 参加者：19 名 参加者：5 名
2020.10	オンラインまちづくりワークショップ ○羽生市立村君小学校総合学習支援 with コロナ：利根川カヤックツアーのプレ開催	参加者：4 名 小学生 12 名、保護者 6 名 一般参加：3 名
2020.11	道の駅はにゅうまつり	本体イベントの中止
2020.12	まちづくりワークショップ	参加者：5 名
2021.3	利根川体験アクティビティ（川下り・自然体験）	参加者：14 名
2021.5	利根川川下りイベント	行田市教育委員会 10 名
2021.6	E ボート講習会	当会+建設技研：8 名
2021.7	利根川川下りイベント	流域住民+連携企業：12 名
2021.9	利根川川下りイベント	さいたま水族館他：10 名
2021.10	羽生市立村君小学校支援 彩×北 Nature Project (利根川自然講演会)	小学生 18 名、保護者 9 名 来場者数 50 名
2021.10-11	彩×北 Nature Project (ボート撮影会：2 日間) 彩×北 Nature Project (利根川の魅力企画展示)	来場者数 40 組（約 120 名） 来場者数 500 名程度
2021.11	彩×北 Nature Project (彩北環境シンポジウム) 彩×北 Nature Project (川下りイベント)	来場者数 100 名程度 3 日 16 名、7 日 17 名
2022.6	利根川川下りイベント	一般市民：6 名
2022.7	○羽生市立村君小学校総合学習支援（水辺の安全講座・座学）	村君小 4-5 年 31 名、教員 3 名
2022.7	○羽生市立川俣小学校総合学習支援（水辺の安全講座）	川俣小 6 年 13 名、教員：2 名
2022.7-8	川に学ぶ体験活動協議会リーダー研修（水辺の安全管理講習）	小山市 5 名、一般 4 名
2022.8	利根川川下りイベント	埼玉純真大 3 名、一般 3 名
2022.9	○羽生市立川俣小学校総合学習支援（ラフティングツアー）	川俣小 6 年 13 名、教員 7 名
2022.9	利根川観光活用ワークショップ①	一般参加者 30 名（学生 9 名）
2022.9	利根川観光活用ワークショップ②	一般参加者 28 名（学生 9 名）
2022.10	利根川川下りイベント	日大 5 名、一般 3 名
2022.10	利根川観光活用ワークショップ③	一般参加者 22 名（学生 9 名）
2022.10	利根川の魅力を育む会 Instagram 開設	フォロワー；50 名程度
2022.10	○羽生市立村君小学校総合学習支援（ラフティングツアー）	川俣小 6 年 30 名、教員 5 名
2022.10	利根川観光活用ワークショップ④	一般参加者 20 名（学生 6 名）
2022.11	利根川観光イベント「Tone River De First Step」の試行	一般参加者 30 名（WS 参加者）

【凡例】 ■：コロナ禍、■：2022 年度の取り組み

## 2. 活動内容

### 2.1 2022 年度活動概要（年間）

本年度は本格始動から4年目であり、新設川づくり団体助成の集大成となる年度であることから、これまでの活動を振り返り以下の3つの方針を掲げて活動を展開することにした。

- ①これまで培った知識や技術、地域間ネットワークを活かした取り組みの実施
- ②既存の取り組みを振り返り、反省点を考慮した発展的取り組みへの昇華
- ③これまでにない新たな利根川を活用した取り組みの実践

こうした方針のもと、当会では、新型コロナウイルス感染症への感染対策を実施しながら、当会活動の主力を担う「利根川ラフティングツアー」や「河川学習支援」では、これまでの取り組みに関する反省点や社会背景（水辺の事故多発）を考慮して、水辺での活動の前に安全講習に関する講習を追加実施することを徹底した。さらに、こうした取り組みに加えて、これまで培ってきた地域ネットワークを活用した産学官民連携による「利根川観光活用ワークショップ」の開催と、ワークショップによる地域意見を反映した「利根川観光イベント～Tone River De First Step～」の試行を展開しました（表 2-1）。

なお、新型感染症対策としての乗船時のマスク着用については、当会ガイドメンバー間での議論の結果、水中落下時にマスクが水を含むと息ができずにパニックになる恐れがあるため、安全性に考慮して乗船時にマスクは着用しない方針としました。

表 1-1 利根川の魅力を育む会（2022 年度）

年月	取組概要	備考
2022. 6	利根川川下りイベント	一般市民：6名
2022. 7	○羽生市立村君小学校総合学習支援（水辺の安全講座・座学）	村君小4-5年31名, 教員3名
2022. 7	○羽生市立川俣小学校総合学習支援（水辺の安全講座）	川俣小6年13名, 教員：2名
2022. 7-8	川に学ぶ体験活動協議会リーダー研修（水辺の安全管理講習）	小山市5名, 一般4名
2022. 8	利根川川下りイベント	埼玉純真大3名, 一般3名
2022. 9	○羽生市立川俣小学校総合学習支援（ラフティングツアー）	川俣小6年13名, 教員7名
2022. 9	利根川観光活用ワークショップ①	一般参加者30名（学生9名）
2022. 9	利根川観光活用ワークショップ②	一般参加者28名（学生9名）
2022. 10	利根川川下りイベント	日大5名, 一般3名
2022. 10	利根川観光活用ワークショップ③	一般参加者22名（学生9名）
2022. 10	利根川の魅力を育む会 Instagram 開設	フォロワー；50名程度
2022. 10	○羽生市立村君小学校総合学習支援（ラフティングツアー）	川俣小6年30名, 教員5名
2022. 10	利根川観光活用ワークショップ④	一般参加者20名（学生6名）
2022. 11	利根川観光イベント「Tone River De First Step」の試行	一般参加者30名（WS参加者）

【注】本紙で整理する活動内容は12月1日現在のもとなります。

## 2.2 2022 年度活動概要（個別）

### 2.2.1 利根川川下りイベント

#### (1) 実施概要

- ・実施日：2022（令和4）年6月28日（日）
- ・実施場所：利根川（行田市利根大堰～羽生市東武伊勢崎線高架下間）約4.5km
- ・参加者：利根川流域住民：6名
- ・活動目的：地域住民の皆さんに利根川の魅力を知ってもらう

#### (2) 活動内容

新型コロナウイルスが落ち着き緊急事態宣言も解除されたことから、これまでの活動時に検討したアクセスの良さや水際の安全性、運用時間、地域資源（ガイドトークのネタ）の豊富さ等を考慮して、行田市利根大堰をスタート地点として羽生市川俣地区地先（東武伊勢崎線高架下）までのラフティングツアーを実施した。今回は、小さなお子さん（3歳児1名、7歳児1名）が参加したこともあり、ガイド2名体制で安全性を確保しながらツアーを実施した(写真2-1)。

当日は晴天であり、コロナ禍で疲弊していた参加者の皆さんは以前にもまして楽しそうに川下りを満喫していた（写真2-2～2-4）。今回は幼稚園児（3歳児）を乗船させたが、試乗中に急に睡魔に襲われ、大人1名が付きっきりになる等の事象が発生したため、乗船人員に余裕をもってツアーを展開するよう配慮が必要であることを認識した。

ゴール後に川辺で水遊びを実施したが、子供たちはボートよりもこっち（水遊び）の方が楽しそうであったと感じた。年齢層によっては、単にこうした水遊び活動でも賑わい創出につながるものと推察する。



写真 2-1 ガイド2名体制



写真 2-2 楽しそうにする子供たち



写真 2-3 コロナ禍でも楽しそう



写真 2-4 利根川水面を満喫



写真 2-5 ボートより水かけっこ？



写真 2-6 こっちの方が楽しそう？



## 2.2.2 河川学習支援（水辺の安全講座）

### (1) 実施概要

- ・実施日：2022（令和4）年7月6日（水）
- ・実施場所：羽生市立村君小学校および川俣小学校
- ・参加者：村君小（4～5年生31名、教諭2名）、川俣小（6年生13名、教諭2名）
- ・活動目的：利根川川下りの事前学習（水辺の安全講座）

### (2) 活動内容

羽生市立村君小学校4～5年生、羽生市立川俣小学校6年生および川下り未経験の先生方（計4名）を対象に、利根川川下りの事前学習（水辺の安全講座）を実施した（写真2-7、2-8）。

事前学習では、利根川現地に出向く前に、河川域（河川敷～水辺～水中）における危険箇所について、児童らが認識する危険な箇所を選定（写真2-9）し、実際にはどのような場所に如何なる危険が潜んでいるのかについて解説することで深い学びができるよう配慮した。さらに、それらの危険を回避するための方法として、ライフジャケットや靴等の安全管理用具に加え、救助用具（パドルやスローロープ）の特性や使い方などを解説するとともに、実際にライフジャケットの着装およびプールでの浮遊、救助体験を実施することで、ライフジャケットの効果（落水しても全体に浮いてくる）や救助時の注意点について体験的に学んだ（写真2-10）。

当日は、天候もよかったことからライフジャケットを着用しての浮遊体験（水中の楽しさ）や教員側にはスローロープによる救助体験（写真2-11）やライフジャケットの肩を持つての引き上げ体験（写真2-12）も実施したことで、水辺での安全な運営のための工夫点等なども理解してもらえたと考える。



写真 2-7 事前学習(川俣小)



写真 2-8 事前学習(村君小)



写真 2-9 川の危険箇所調べ



写真 2-10 ライフジャケット浮遊体験



写真 2-11 スローロープ救助体験



写真 2-12 引き上げ体験

## 2.2.3 RAC リーダー研修

### (1) 実施概要

- ・実施日：2022（令和4）年7月24日（土）、30日（土）、8月20日（土）
- ・実施場所：小山市役所および思川（観晃橋付近）
- ・参加者：小山市役所：5名、一般参加者：4名
- ・活動目的：ボート操船技術の習得および向上、安全管理の技術および意識向上

### (2) 活動内容

利根川川下りの基本技術の習得および操船技術の向上、水辺での安全管理の技術および意識向上を目的としてRAC リーダー研修会（3日間）を実施した。はじめに、座学にて川に学ぶ体験活動の理念や「指導法」「基礎技術」を学ぶとともに、思川現地にて河川構造と生息域の観察、ガサガサ体験を実施した（写真 2-13～2-15）。二日目には、川と人、社会、文化の関わりを体験するため渡良瀬遊水地の見学（写真 2-16）や地域文化であるヨシズ作成体験（写真 2-17）、さらに、室内でのファーストエイドの実施方法（写真 2-18）に関する指導を展開した。

最終日には、危険予知トレーニングや河川体験活動のプログラムづくりワークショップ（写真 2-19）を実施するとともに、ラフティングボートおよびパドル等の取り扱いや的確に操船するための講習（写真 2-20）、急流河川における河川渡河訓練（写真 2-21）も併せて実施し、最終日に全体の振り返りを実施した。



写真 2-13 座学講習



写真 2-14 ガサガサ体験



写真 2-15 専門家による説明



写真 2-16 渡良瀬遊水地の見学



写真 2-17 ミニヨシズ体験



写真 2-18 ファーストエイドの実践



写真 2-19 ワークショップ風景



写真 2-20 操船訓練



写真 2-21 ボート片付け



## 2.2.4 利根川川下りイベント

### (1) 実施概要

- ・実施日：2022（令和4）年8月27日（土）
- ・実施場所：利根川（行田市利根大堰～羽生市川俣地区地先）約4.5km
- ・参加者：利根川流域住民および関連企業
- ・活動目的：地域住民の皆さんに利根川の魅力を知ってもらう

### (2) 活動内容

羽生市観光プロモーション課と同市内の大学「埼玉純真短期大学（学生3名）」をお招きしての利根川川下りツアーを実施した。

実施に際しては、まずは入水前にしっかりと、水辺活動に係る事前の安全講習や落水時の心構え、ボート乗船時の注意事項の解説（写真2-22）を行ったうえで乗船し、その後、流れの緩やかな場所にて漕ぎ方練習を実施する旨を説明・体験してもらった。また、河川構造物（利根大堰や水制工など）や周辺の自然環境（鳥類・魚類など）、利根川と羽生市の歴史的な関係性等の解説やボート体験の楽しさ（写真2-23）等も体験してもらった。当日は、天候もよかったことから乗船後には、ライフジャケット浮遊体験も併せて実施した（写真2-24）。



写真 2-22 事前の安全講習



写真 2-23 利根川川下りの風景



写真 2-24 乗船後の浮遊体験



## 2.2.5 河川学習支援（川俣小学校：ラフティングツアー）

### (1) 実施概要

- ・実施日：2022（令和4）年9月2日（金）
- ・実施場所：利根川（行田市利根大堰～羽生市川俣地区地先）約4.5km
- ・参加者：川俣小学校6年生：13名、保護者・教員：7名
- ・活動目的：地域ネットワークの強化（川俣小学校および川俣地区：当会の新規地区）  
普段利根川へ出向かない方々への利根川の魅力（自然環境）の情報発信  
次世代を担う子供たちの郷土愛の育成（地域に根差した人材育成）

### (2) 活動内容

羽生市立川俣小学校からのご依頼により、利根川ラフティングツアーの企画・運営を行いました。当小学校では6年総合学習の時間を活用して、ふるさとの川“利根川”の歴史・文化や羽生地域との関係性を学びつつ、その一環として利根川を探検するラフティングツアーを実施した。7月に行った事前学習（水辺の安全講座）の振り返りを行いながら、準備運動や川での安全指導、ボートの乗船指導（写真2-25）を実施した。その後、ボート上での漕ぎ方練習（写真2-26）や決めポーズの練習（写真2-27、2-28）を行うとともに、利根川に広がる雄大な自然環境（夏季との季節感の違いや台風後の変化等）や河川構造物（排水機場、水衝部・テトラポット、河川防災センターなど）に関する説明なども併せて実施した。ボート下船後には、全体での記念撮影（写真2-29）を行い、その後、フリータイム（水遊びの時間）を設けた（写真2-30）。

川俣小学校では初めてのツアー体験であり、次年度以降も継続して取り組みたいという、前向きなご意見がいただけた点が評価できると認識している。



写真 2-25 事前の安全講習



写真 2-26 ボートの乗船指導



写真 2-27 堰による漕上抑制効果



写真 2-28 利根川川下りの風景



写真 2-29 乗船時の記念撮影



写真 2-30 楽しそうな雰囲気

## 2.2.6 羽生市・利根川観光活用ワークショップ①

### (1) 実施概要

- ・実施日：2022（令和4）年9月2日（金）14:30～16:30
- ・実施場所：羽生市民プラザ2階会議室
- ・参加者：羽生市周辺の民間企業および一般市民（30名）
- ・活動目的：地域ネットワークの強化（羽生市全域）

利根川の魅力の発掘、情報共有＋情報発信

地域の考える利根川の観光活用策の抽出・実践

### (2) 活動内容

「利根川」の観光活用策アイデアの抽出、具体的実践方法などの方策（時系列（短中長期）、実施責任の明確化）を議論するとともに、産学民官が連携して実行可能な「アクションプラン」を構築することを目的として、「企業（産）」、「大学（学）」、「住民（民）」、「羽生市（官）」を対象としたまちづくりワークショップを実施した。

第1回ワークショップでは、当会会長あいさつ（写真2-31）からはじまり、当該プロジェクトの開催趣旨や年間スケジュール、最終的な目標像（イベント実施）に向けた方針を共有するとともに、大学院生による「羽生市と利根川との史的関係性」に関する発表（写真2-32）をいただき、それらを踏まえて、参加者各位の「利根川や羽生市に対する現状の思い」を抽出するためのワークショップを実施した（写真2-33）。このワークでは「利根川への思い」として利根川のイメージや利根川でやってみたいこと、造ってもらいたいもの等さまざまな視点で意見出しを行うとともに、班での意見を模造紙に集約し、4つのグループから発掘された意見の情報共有を図るため、学生らによる発表を行った（写真2-34～36）。

なお、実施内容について別紙「利根川観光活用ワークショップニューズレターNo.1」を参照のこと。



写真 2-31 開会あいさつ



写真 2-32 学生による利根川の歴史



写真 2-33 ワークショップ概要



写真 2-34 利根川への思い意見出し



写真 2-35 各班での討議結果の共有



写真 2-36 活動成果



## 2.2.7 羽生市・利根川観光活用ワークショップ②

### (1) 実施概要

- ・実施日：2022（令和4）年9月23日（金）14:30～16:30
- ・実施場所：羽生市民プラザ2階会議室
- ・参加者：羽生市周辺の民間企業および一般市民（25名）
- ・活動目的：地域ネットワークの強化（羽生市全域）

利根川の魅力の発掘、情報共有＋情報発信

地域の考える利根川の観光活用策の抽出・実践

### (2) 活動内容

「利根川」の観光活用策アイデアの抽出、具体的実践方法などを議論するとともに、産学民官が連携して実行可能な「アクションプラン」を構築することを目的として、「企業（産）」、「大学（学）」、「住民（民）」、「羽生市（官）」を対象としたまちづくりワークショップを実施した。

第2回ワークショップでは、日本大学理工学部部の田島先生からの趣旨説明や第1回ワークショップの振り返りに加え、河川技術者として地場ゼネコン（小川工業）や河川系コンサル（建設技術研究所）に協力いただき、具体的な利根川の活用方策についての検討を開始した（写真2-37～2-39）。具体的には、行政や企業、市民、学生などを混合したグループに分かれて「利根川でやってみたいこと、造ってみたいもの」に関する意見出しを行い、それらを短期・中期・長期的取り組みとして時系列で整理し、4つのグループから発掘された意見の情報共有を図るため、学生らによる発表を行った（写真2-40～2-42）。

なお、実施内容について別紙「利根川観光活用ワークショップニュースレターNo. 2」を参照のこと。



写真 2-37 第2回 WS の概要説明



写真 2-38 小川工業の取組み説明



写真 2-39 建設技研の取組み説明



写真 2-40 ワークショップの全体概要



写真 2-41 ワークショップ(C班)



写真 2-42 WS 成果の発表(D班)

## 2.2.8 利根川川下りイベント

### (1) 実施概要

- ・実施日：2022（令和4）年10月2日（日）
- ・実施場所：利根川（行田市利根大堰～羽生市川俣地区地先）約4.5km
- ・参加者：利根川観光活用ワークショップ参加者
- ・活動目的：ワークショップ参加者に利根川の魅力を知ってもらう

### (2) 活動内容

ワークショップ参加者である日本大学工学部の学生さんと建設技術研究所（河川系コンサルタント）をお招きしての利根川川下りツアーを実施した。

安全性を考慮して入水前にしっかりと準備運動、水辺活動に係る事前の安全講習や落水時の心構え、ボート乗船時の注意事項の解説を行ったうえで乗船し、その後、流れの緩やかな場所にて漕ぎ方練習を実施する旨を説明・体験してもらった（写真2-43～2-45）。

乗船時には、流れる水の働き（洲の付き方、流れの方向等）や河川構造物（利根大堰や水制工など）、周辺の自然環境（鳥類・魚類など）、利根川と羽生市形成の歴史的な関係性等の解説を実施した。さらに、当日は、天候もよかったことから川下り中に水辺ふれあい体験や乗船後のライフジャケット浮遊体験も併せて実施した（写真2-46～2-48）。



写真 2-43 準備運動

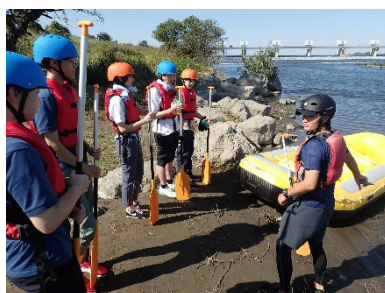


写真 2-44 事前の安全講座



写真 2-45 川下り体験



写真 2-46 水辺ふれあい体験



写真 2-47 ライフジャケット浮遊体験



写真 2-48 記念写真(全体)



## 2.2.9 羽生市・利根川観光活用ワークショップ③

### (1) 実施概要

- ・実施日：2022（令和4）年10月2日（日）14:30～16:30
- ・実施場所：羽生市民プラザ2階会議室
- ・参加者：羽生市周辺の民間企業および一般市民（23名）
- ・活動目的：地域ネットワークの強化（羽生市全域）

利根川の魅力の発掘、情報共有＋情報発信

地域の考える利根川の観光活用策の抽出・実践

### (2) 活動内容

「利根川」の観光活用策アイデアの抽出、具体的実践方法などを議論するとともに、産学民官が連携して実行可能な「アクションプラン」を構築することを目的として、「企業（産）」、「大学（学）」、「住民（民）」、「羽生市（官）」を対象としたまちづくりワークショップを実施した。

第3回ワークショップでは、日本大学理工学部の大学院生が司会を務め、同大学の田島先生からの第1～2回ワークショップの振り返りに加え、ワークショップの運用方法（プログラムづくりの基礎）について、説明いただいた（写真 2-49）。ワークでは、具体的な利根川の活用方策についての検討を開始した4グループに分かれて利根川の『具体的な活用方法』について討議した（写真 2-50、2-51）。具体的には、第1回・第2回WSで発掘された「利根川への想い」や「利根川でやってみたいこと・つくってみたいもの」等のご意見を踏まえ、①利根川を基軸とした「歴史探訪」、②羽生産を体験する川原 De BBQ、③川原 De アートコンテスト、④フォトコンテスト＋インスタ（情報発信）をテーマとした「利根川観光イベント」のプログラム（案）づくりを実施し、4つのグループから発掘された意見の情報共有を図るため、学生らによる発表および質疑応答を行った（写真 2-52～54）

なお、実施内容について別紙「利根川観光活用ワークショップニューズレターNo. 3」を参照のこと。



写真 2-49 第3回 WS の概要説明



写真 2-50 ワークショップの全体概要



写真 2-51 ワークの実施(C班)



写真 2-52 WS 成果の発表(A班)



写真 2-53 WS 成果の質疑応答(D班)



写真 2-54 WS 記念写真

## 2.2.10 河川学習支援（村君小学校：ラフティングツアー）

### (1) 実施概要

- ・実施日：2022（令和4）年10月12日（水）
- ・実施場所：利根川（行田市利根大堰～羽生市川俣地区地先）約4.5km
- ・参加者：川俣小学校4～5年生：30名、保護者・教員：5名
- ・活動目的：地域ネットワークの強化（村君地区）

普段利根川へ出向かない方々への利根川の魅力（自然環境）の情報発信  
次世代を担う子供たちの郷土愛の育成（地域に根差した人材育成）

### (2) 活動内容

本年度で16年目になる羽生市立村君小学校総合学習～利根川河川学習～の一環としてラフティングボートで利根川を下る「利根川ラフティングツアー」の企画・運営を実施した。

授業の一環として、7月に行った事前学習（水辺の安全講座）の振り返りを行いながら、準備運動やボートの漕ぎ方講習（写真2-55、2-56）を行うとともに、利根川に広がる雄大な自然環境（夏季との季節感の違いや台風後の変化等）や河川構造物（排水機場、水衝部・テトラポット、河川防災センターなど）に関する説明なども併せて実施した。4年生は初めての乗船、5年生は2回目の乗船であり、どちらも楽しそうに乗船していた（写真2-57～58）。ボート下船後には、全体での記念撮影（写真2-59）を行い、その後、フリータイム（水遊びの時間）を設けた（写真2-60）。こうした活動も村君小学校をはじめ、河川管理者や民間企業などのみなさんの支えがあってこそ継続できることから今後もできる限り頑張って実施していきたい。



写真 2-55 事前の安全講習



写真 2-56 ボートの乗船指導



写真 2-57 ボートの漕ぎ方練習



写真 2-58 利根川下りの風景



写真 2-59 乗船時の記念撮影



写真 2-60 水遊びが一番楽しい



## 2.2.11 羽生市・利根川観光活用ワークショップ④

### (1) 実施概要

- ・実施日：2022（令和4）年10月16日（日）14:30～16:30
- ・実施場所：羽生市民プラザ2階会議室
- ・参加者：羽生市周辺の民間企業および一般市民（20名）
- ・活動目的：地域ネットワークの強化（羽生市全域）

利根川の魅力の発掘、情報共有+情報発信

地域の考える利根川の観光活用策の抽出・実践

### (2) 活動内容

「利根川」の観光活用策アイデアの抽出、具体的実践方法などを議論するとともに、産学民官が連携して実行可能な「アクションプラン」を構築することを目的として、「企業（産）」、「大学（学）」、「住民（民）」、「羽生市（官）」を対象としたまちづくりワークショップを実施した。

第4回ワークショップでは、日本大学理工学部の大学院生が司会を務め、同大学の田島先生からの第1～3回ワークショップの振り返りとして、これまでに検討してきた4つの「利根川観光活用イベント」の実践的プログラムの課題について解説いただいた（写真 2-61）。ワークでは、具体的な利根川の活用方策についての検討を開始した4グループに分かれて利根川の『具体的な活用方法』について討議した（写真 2-62、2-63）。具体的には、第1回・第2回WSで発掘された「利根川への想い」や「利根川でやってみたいこと・つくってみたいもの」等のご意見を踏まえ、①利根川を基軸とした「歴史探訪」、②羽生産を体験する川原 De BBQ、③川原 De アートコンテスト、④フォトコンテスト+インスタ（情報発信）をテーマとした「利根川観光イベント」のプログラムの具体化を図り、4つのグループから発掘された意見の情報共有を図るため、学生らによる発表・質疑応答を行った（写真 2-64～66）

なお、実施内容について別紙「利根川観光活用ワークショップニューズレターNo. 4」を参照のこと。



写真 2-61 第3回 WS の概要説明



写真 2-62 ワークショップの全体概要



写真 2-63 ワークの実施(A班)



写真 2-64 WS 成果の発表(C班)



写真 2-65 WS 成果の質疑応答(B班)

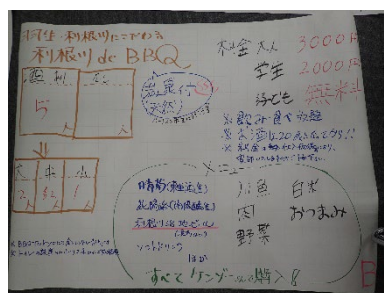


写真 2-66 WS 成果(B班)

## 2.2.12 羽生市・利根川観光イベント～Tone River De First Step～

### (1) 実施概要

- ・実施日：2022（令和4）年11月5日（土）11:00～16:30
- ・実施場所：道の駅はにゅうおよび利根川砂州（羽生市新郷地先）
- ・参加者：ワークショップ参加者（30名）
- ・活動目的：地域ネットワークの強化（羽生市全域）

利根川の魅力の発掘、情報共有＋情報発信

地域の考える利根川の観光活用策の抽出・実践

### (2) 活動内容

9～10月で実施してきた「羽生市利根川観光活用ワークショップ（全4回）」によって検討を行ってきた「プレ利根川観光イベント（①利根川を基軸とした歴史探訪まち歩き（写真2-67）、②羽生・利根川にこだわる川原 De BBQ（写真2-68）、③川原 De 石アート体験（写真2-69）、④川原 De フォトコンテスト（写真2-70）」を実施した。

イベント当日は、埼玉純真短期大学や日本大学理工学部の学生に加え、小川工業株式会社（地場ゼネコン）や建設技術研究所（河川系コンサル）、県営さいたま水族館（公共団体）、羽生市役所（行政団体）など、地域に賦存する多様なメンバーが利根川に集合して、思い思いに利根川を満喫した。特に今回参加した子供たちは利根川への興味関心が高く、水辺で遊ぶ光景が多く伺えた（写真2-71）。まちづくりワークショップで抽出された地域の方々のちいさな「利根川への思い」が、学生力や地域力を注ぎ込むことで「利根川観光イベント」の試行にまでたどり着くに至ったことは非常に評価できると考える（写真2-72）。



写真 2-67 歴史探訪まち歩き



写真 2-68 羽生にこだわる BBQ



写真 2-69 川原 De 石アート



写真 2-70 フォトコンテスト



写真 2-71 川辺の子供の様子



写真 2-72 記念撮影



### 3. まとめと今後の展望

2022年度は本格始動から4年目であり、かつ、新設川づくり団体助成の集大成となる年度であることから、これまでの活動を振り返り、以下の3つの方針を掲げて活動を展開してきました。

- ①これまで培った知識や技術、地域間ネットワークを活かした取り組みの実施
- ②既存の取り組みを振り返り、反省点を考慮した発展的取り組みへの昇華
- ③これまでにない新たな利根川を活用した取り組みの実践

こうしたなか、本年度は春先や夏場の新型コロナウイルスの感染者数の急増などによる活動抑制がかかる中ではありましたが、丁寧な感染対策と水辺での安全性との両立を図りながら、継続的な取り組みや新たな流域連携に係る企画などを進めることができた点は非常に評価できるものと認識しています。また、本年度から開始した「利根川観光活用ワークショップ（全4回）」では、地域住民や利根川に関連する周辺の企業や大学から100名以上の方々にご参加いただくとともに、そのワークショップ内にて地域から求められて検討が進んだ「利根川観光イベント（利根川歴史まち歩き、川原 De BBQ、川原 De アート、川原 De フォトコンテスト）」の試行にも30名以上の方に参加いただけるなど、今後の利根川の観光活用に向けた取り組みの実効性が改めて確認できた点も評価できると認識しています。

このほかに、ワークショップ内で中長期的な取り組み案として、「川原 De サウナ」や「河川敷公園」、「利根アートフェスティバル復活」なども出てきており、これらに関しては、当会が中心となり、実践的取り組みにまで昇華させるべく、河川管理者（利根川上流河川事務所）との調整を開始しています。また、当会既存の取組計画となる利根川上流域である「群馬県みなかみ町」のラフティング関係者とのやり取りの中で、冬季にみなかみ町から雪を運搬し、羽生市域河川敷でスノーパークを造成する等のアイデアだしを行えたことから、地道ではありますが一步一步前へ進んでいるものと感じています。

以上のように、4ヶ年にわたる「新設川づくり団体助成事業」での取り組みは、当初目標を十分達成したものであると認識しております。しかし、“利根川の観光活用”としてひとつひとつ実践していくと、さらなる、課題が抽出されるとともに、新たな事業化の必要性も垣間見えてくることから、今後もどんどんと発展すべく、利根川を中心とした取り組みを継続実施していく所存であります。

以上

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2022-6322-006	利根川は地域をつなぐ	利根川の魅力を育む会・会長 石川貴夫
主な実施箇所	利根川川下り；埼玉県行田市須加（利根大堰）から羽生市川俣（東武伊勢崎線高架下）、利根川観光活用ワークショップ；羽生市民プラザ会議室、河川学習支援；羽生市立村君小学校、羽生市立川俣小学校	



助成事業の主な実施箇所

遠景・近景	ワークショップチラシ（例）
<p>▲村君小河川学習実施時</p> <p>▲小山市 RAC リーダー研修実施時</p>	<p>2022年 利根川の魅力を育む会 利根川観光活用 まちづくりワークショップ 参加者大募集</p> <p>申込期間 9/24(白)～10/1(土) ※参加者には10/1(日)から開始する利根川川下り体験をプレゼント!</p> <p>開催日時 10/2(日) 14:30～</p> <p>利根川の魅力を育む会 「SDGs（持続可能な開発目標）」という言葉を聞いたことがありますか？ 当会では利根川での川遊び体験を通して、「自然環境の豊かさ、やばい水の質などの「問題」を身近に感じ、川について考えもつなげをおこなっている体験プログラムを企画しています！」</p> <p>開催概要 利根川観光活用ワークショップ！ ※参加費は無料です。 村君小学校の2階の会議室にて参加ください！</p> <p>主催：任意団体 利根川の魅力を育む会 協力：羽生市観光プロモーション課</p>

河川基金ロゴ等表示状況写真